

研究室から――

【山形大学都市地域学研究所】

所長 松尾剛次



私が山形大学に着任して既に二十一年が経った。その間、平成八年には、私の職場であった教養部が解体し、人文学部へ配置換えとなるという私にとっては大きな荒波を経験した。さらに、平成十六年から始まる国立大学の法人化にもない、さらなる大変化が予想される。このように最近の国立大学を取り巻く情勢は厳しさを増し、国立大学への社会的要請も一段と強まっている。その要請の最たるものは、大学の効率化であり、研究成果の社会還元であろう。

私の専門は、日本都市論と日本仏教史であり、日本をフィールドとするといえ、過去を研究対象としているとして、何年前前であれば、実用とは一見縁のない研究と思われ、それで済んできた。しかし、私としては、以

前から自己の研究が現在といかにかかわるのかを絶えず意識してきたので、しばしば学生たちに自己の研究と現在との関係について話をしてきたものである。

たとえば、都市奈良を例に挙げれば、ともすれば奈良といえは古代都市奈良（平城京）の発展した姿と考えられるが、そうではなくて、実は、中世都市奈良の方が現在の都市奈良の基本であったということがある。すなわち、古代都市奈良は、中世初期までには衰退し、とくに平重衡の焼き討ち以後は、興福寺・



「都市」と「地域」の

学際的研究の拠点



東大寺の門前町として発展した結果、現在の奈良は中世都市奈良を基本としたのである。こう考えると、古代奈良すなわち平城京の遺跡が奈良のはずれに広がっているのも理解されやすい。要するに、現在の都市の景観（都市計画の前提となる）を理解し都市計画を立てるうえで、その都市の歴史を知ることが重要なのである。

このように私は、過去を研究するといっても、絶えず現在を意識してきたが、同時に、いかにしたら自己の研究をより社会に還

元できるのかも考えてきた。とくに、山形大学は人文学部・教育学部・理学部・工学部・医学部・農学部といった文理両系にわたる総合大学にもかかわらず、ともすれば各々バラバラに研究が行われ、必ずしも文理両分野を総合した研究がなされてはこなかった。それゆえ、たとえば、同じく山形地域をフィールドにしても、歴史学・地理学・社会学・都市工学・農学・医学など、学部ごとに各々別個に研究を行い、同じ大学にいるにもかかわらず、学部を超えた連携・共同研究の体制は確立していなかった。そこで、私は全学の志を同じくする人々とともに、都市地域学をキーワードに、二二年の二月に、山形大学のヴァーチャル研究所の一つとして都市地域学研究所の設立申請を行い許可された。ヴァーチャル研究所というのは、建物を持たないけれども、山形大学の一組織としての研究者集団が存在する研究所のことである。

この研究所の目的は大きく二つある。第一には、歴史学、宗教学、文化・伝承学、地理学、経済学、社会学、地球物理学、環境工学、都市工学、農学、公衆衛生学、地域看護学などの分野から、総合的かつ多面的に、「都市」および「地域」を学際的に研究することを目的とする。第二の目的は、本研究所が、日本における「都市・地域学」の研究拠点として機能し、本研究所組織が、国際的視野に基づいた学際的分野「都市・地域学」における学術活動推進のための中心的役割を担うことであ



分野を超えて連携・協力し研究を行う山形大学

る。そして、本研究所の各部門の研究水準の高度化を進めるため、内外研究者の共同研究参加を促進する。とりわけ、自然と都市の共存を可能としている地方中核都市「山形」で、東日本有数の規模を誇る「山形大学」を拠点として活動する。本研究所には以下の四つのセンターを置き、それぞれに部門を置いてい

(一) 歴史・文化研究センター(松尾剛次代表)

日本都市・地域史研究部門「研究テーマは、「古代日本都市・地域史研究」、「中世日本都

市・地域史研究」、「近代日本都市・地域史研究」、「現代日本都市・地域史研究」などである。

日本都市・地域文化・伝承研究部門「研究テーマは、「日本文化」、「説話・伝承研究」、「日本語学」など。

比較都市・地域史部門「研究テーマは、「東洋都市・地域史研究」、「欧米都市・地域史研究」、「南米都市・地域史研究」など。

(二) 地域科学研究センター(大川健嗣代表)
地理学部門「研究テーマは、「自然地理学」、「防災地理学」、「人文地理学」など。

都市・地域経済学部門「研究テーマは、「都市経済学」、「農業経済学」、「環境経済学」など。

都市・地域社会学部門「研究テーマは、「都市社会学」、「家族社会学」、「農村社会学」など。

(三) 環境・社会システム研究センター
(上木勝司代表)

自然環境システム部門「研究テーマは、「資源科学」、「自然災害」、「生物環境」、「水資源・環境」、「森林環境」など。

都市・地域環境システム部門「研究テーマは、「地下水工学」、「豪雪工学」、「水道工学」、「環境工学」、「汚染工学」、「都市計画」など。

(四) 地域医療・看護・高齢者福祉システム研究センター(深尾彰代表)

地域医療部門「研究テーマは、「公衆衛生

学」。

地域看護・介護部門「研究テーマは、「地域看護学」、「老人福祉学」など。

要するに、通常は、四センターを中心に研究を行いつつも、プロジェクトごとにセンターを超えて連携・協力し、文・理融合の地域学シンクタンクを目指す研究所たらんと活動している。二 三年二月には、地域科学研究センター長大川健嗣教授による研究報告会が予定されているし、六月には毎土曜日に「山形の魅力再発見」というテーマで本研究所主催の公開講座の開催も予定されている。敷居の高かった観のある本学も確実に社会に門戸を開き、社会的ニーズにこたえようとしていることを理解し、種々の要望を寄せていただきたい。

松尾 剛次

山形大学人文学部教授・都市地域学研究所所長。
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12。
1954年長崎県に生まれる。東京大学文学部・同大学院を経て、1981年より山形大学へ。
1994年に東大文学博士号を授与される。専門は日本仏教史等。日本仏教総合研究会会長。
著書:『『お坊さん』の日本史』(NHK出版)、『中世都市鎌倉を歩く』(中公新書)ほか。